



# 横浜トリエンナーレ 2011

## キックオフ ミーティング

「横浜トリエンナーレ 2011」は 2011 年 8 月 6 日から 11 月 6 日まで横浜美術館と日本郵船海岸通倉庫（BankART Studio NYK）の二会場を中心に開催されることになりました。2001 年（第 1 回）、2005 年（第 2 回）、2008 年（第 3 回）に続き、第 4 回目となる今回は、第 1 回展の開始以来 10 年目の節目であるとともに、運営が横浜に移行し、これまで以上に開催地・横浜が主体となって運営をすることになりました。

その第一歩として、横浜美術館が運営拠点となり、これまでの創造都市政策により生まれた BankART や黄金町などの創造界隈の様々な発信拠点のハブとして有機的に結び、未来への蓄積と投資につなぐ方向性を模索します。

「横浜トリエンナーレ 2011 キックオフ・ミーティング」では、次なるステージへと進む横浜トリエンナーレの新しいビジョンを共有するため、国際展としての横浜トリエンナーレの過去と未来を語るとともに、地元横浜の関係者とともに今後の展望を議論します。

第 1 日目 2010 年 10 月 2 日（土）15:00～17:30

### 多様化する国際展 —横浜トリエンナーレが目指すもの

第 2 日目 2010 年 10 月 3 日（日）11:00～18:00

### 多様化するアート —横浜が考える都市、コミュニティ、そして、アート

会 場 : ヨコハマ創造都市センター（YCC）3 階（横浜市中区本町 6-50-1）

主 催 : 横浜トリエンナーレ組織委員会

特別協力: プリティッシュ・カウンスル

協 力 : 北仲スクール、NPO 法人 BankART1929、黄金町エリアマネジメントセンター、  
公益財団法人横浜市芸術文化振興財団【順不同】



第1日目 2010年10月2日(土) 15:00~17:00

## 多様化する国際展—横浜トリエンナーレが目指すもの

ビエンナーレ、トリエンナーレという名称に代表される現代美術の国際展は、現在、増加・多様化の一途をたどり、あるデータによれば世界で60以上\*、版画や写真など分野を限定したものを入れると大・小200近い国際展が開催されています。

横浜トリエンナーレは、日本の本格的な都市型現代美術の祭典として独立行政法人国際交流基金の主導のもと、2001年に華々しくスタートしました。2011年に第4回目を迎える横浜トリエンナーレは、運営の主軸が独立行政法人国際交流基金から横浜へ移行し、横浜美術館が主会場になるなど、大きな転換期を迎えています。

一方、この10年で、従来、欧米を中心に開催されていた国際展がアジア各地でも数多く開催されるに至り、横浜トリエンナーレをとりまく環境は大きく様変わりしました。日本でも、ビエンナーレ、トリエンナーレと称する展覧会が国内で開催されてきましたが、多くは、当初の理念や理想を堅持しながら、発展的に10年以上継続することが困難な状況に直面しています。

横浜と同様に港町の再生に関わり、1999年の開始以来、美術館と地域との連携を進展させたリバプール・ビエンナーレの事例等も紹介しつつ、横浜トリエンナーレの歴代ディレクターも交えて、日本における現代美術の国際展の意義ならびに横浜トリエンナーレの可能性について議論します。

\*Asian Art Archiveによる2006年のデータ

15:00~15:05 主催者あいさつ

15:05~15:45 基調講演「リバプール・バイエニアルの挑戦」

ルイス・ビクス (リバプール・バイエニアル アーティスティック・ディレクター)

15:45~16:00 休憩

16:00~17:30 パネル・ディスカッション「横浜トリエンナーレが目指すもの」

パネリスト:

横浜トリエンナーレ 2001 アーティスティック・ディレクター  
南條史生 (森美術館館長)

横浜トリエンナーレ 2005 総合ディレクター  
川俣 正 (美術家)

横浜トリエンナーレ 2008 総合ディレクター  
水沢 勉 (神奈川県立近代美術館副館長)

横浜トリエンナーレ 2011 アーティスティック・ディレクター  
三木あき子 (パレ・ド・トーキョー チーフ・キュレーター)

ルイス・ビクス

司会: 横浜トリエンナーレ 2011 総合ディレクター 逢坂恵理子 (横浜美術館館長)

\*英和逐次通訳



第2日目 2010年10月3日(日) 11:00~18:00

## 多様化するアート—横浜が考える都市、コミュニティ、そして、アート

1990年代以降、「アートの多様化と地域との関わり」が社会的なテーマとして注目され、作り手であるアーティストはその活動拠点の地域の人々と関わったり、その土地の歴史や特徴に根ざした作品を制作することが期待されています。受け手も作品を鑑賞するだけではなく、作品制作の過程を共有したり、作品を成立させるために能動的に関わるなど、アートを体験する領域が拡大してきました。アートは文化振興のみならず、観光や福祉等の振興にも活用されるようになり、その担い手も美術館のほかにもNPOや大学など多様な団体が関わるようになりました。第2日目は横浜で活動するNPO法人BankART 1929とNPO法人黄金町エリアマネジメントセンターの試みを紹介するとともに、国際展とまちづくりの両方に取り組む韓国光州の事例をもとに、多様化するアートを政策的に生かす創造都市のあり方について議論します。

---

### 11:00~13:30 横浜の文化拠点の見学会

- 11:00~12:00 ①黄金町「黄金町バザール 2010」(集合場所:京浜急行電鉄日ノ出町駅改札)  
12:30~13:30 ②BankART「朝倉 摂展」(集合場所:BankART Studio NYK 1階ロビー)

---

## 多様化するアート—横浜が考える都市、コミュニティ、そして、アート

司会:横浜トリエンナーレ 2011 担当主席学芸員 天野太郎(横浜美術館主席学芸員)

### 14:00~14:10 「横浜が考える都市、コミュニティ、そして、アート」

プレゼンテーション:

横浜トリエンナーレ組織委員会事務局長

秋元 康幸(横浜市APEC・創造都市事業本部創造都市推進部長)

---

### 14:15~15:30 第1部 黄金町バザールの試み

#### 「アートが取り組む黄金町のまちづくり」

アーティストがそのまちに住むだけでは、「まちづくり」にはなりません。アートがその街にどのように「取り組む」のかということを経験し、条件を交渉しながら発展させることによって、初めて「まちづくり」が実現します。

黄金町では、まちづくりの新しい試みとして、他者の視点を持つ海外のゲスト・キュレーターと内からの視点を持つ黄金町のキュレーターが、地元でアートに取り組む方法をシリーズで提示する予定です。今回はその試みの第一弾としてマレーシアのキュレーターを迎えて提案するプロジェクトについて公開討論します。

プレゼンテーション:

サイモン・スーン(インディペンデント・キュレーター)

平野真弓(NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター キュレーター)



コメンテーター：

谷口安利（初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会広報イベント部会長、NPO 法人黄金町エリアマネジメントセンター副理事長）

川俣 正

山野真悟（NPO 法人黄金町エリアマネジメントセンター事務局長）

\*英和逐次通訳

---

## 15:45~16:15 第2部 BankART1929の試み

### 「横浜をハブとしたネットワークの可能性」

NPO 法人 BankART1929 では、展覧会やアーティスト・イン・レジデンスのほかに横浜の各所を会場とするプロジェクトを実施してきました。また、全国に広がるアートイニシアティブ関係者を一同に集めて会議するなど、横浜を拠点とするネットワークづくりにも取り組んできました。横浜という地の利を生かしたネットワークを今後どのように発展させていくのか、次なる試みを紹介します。

プレゼンテーション：

池田 修（NPO 法人 BankART 1929 代表、PH スタジオ代表）

---

## 16:30~18:00 第3部 アジアの創造都市と横浜

### 「創造都市の条件：グローバルかつローカルに活動するために」

創造都市への取り組みを積極的に進めつつある韓国。光州ビエンナーレや、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟など、積極的に文化を政策の柱に据えた都市づくりが行われています。このセッションでは韓国における創造都市の実践例の報告をふまえて、日本と韓国における文化政策と都市計画の実績と課題をグローバルとローカル両方の視点で比較検討します。

## 16:30~17:10 プレゼンテーション「韓国における創造都市の試み」

オ・ミングン

（大韓民国文化スポーツ観光省市場文化コンサルティンググループ コンサルタント）

## 17:10~18:00 ディスカッション「アジアの創造都市と横浜」

パネリスト：

鈴木伸治（横浜市立大学国際総合科学部准教授）

池田修（NPO 法人 BankART 1929 代表、PH スタジオ代表）

山野真悟（NPO 法人黄金町エリアマネジメントセンター事務局長）

オ・ミングン

\*韓和逐次通訳

---

18:15 懇親会（無料）

協力： **アサヒビール株式会社**